

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300550		
法人名	社会福祉法人那賀町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム平野のどかの里		
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見前1-1		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学校の廃校跡地を改修した木造建てのグループホーム、お一人お一人の居室が広くゆったりとできる空間があり、木のぬくもりが温かさを感じる。廊下が長く毎日の生活がリハビリとなりほとんどの方の筋力強化に貢献している。又、事業所そばの体育館や運動場は地域の方々が集う場であるため運動会や芸能祭には利用者の方と共に参加させていただいています。施設の祭りは毎年地域のコミュニティの方と合同で開催しており地域の方に支えていただきながら素晴らしい環境の中で生活させていただいております。また地域の方からは四季を感じる事が出来る新鮮な野菜や果物なども差し入れもあり、利用者の方も施設で旬の食材を味わうことができる。施設に入所された利用者の方は規則正しい生活を送られ、それぞれの方の状況に応じて自分で出来る作業は積極的にしてください、日々の生活でも楽しみを持った生活ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小学校跡地の木造校舎を活用し、改修を行い、共有空間や居室はあたたかみと懐かしさが感じられる造りとなっている。共有空間は、明るくゆったりとした間取りとなっており、居室は、洋室と和室を選ぶことができる。窓からは、山々の風景が一望でき、室内から季節の花見ができるようになっている。利用者と職員で、献立を考え、味付けを行ったり、盛り付けをしったりしている。管理者と職員は、事業所が地域の一人として交流しつつ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように努め、一人ひとりの思いや意向が実現できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には施設の理念を伝え、グループホームの目的や意義について理解してもらおうように努めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げている。職員間で、理念の共有化に努めており、職員は、常に理念を意識したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる運動会や芸能祭などの行事には積極的に参加している。施設の祭りはコミュニティの方と共同で開催し、地域全戸を招待し感謝の気持ちを伝えて交流している。	事業所では、地域との繋がりを大切に考え、地域行事やイベントには、事業所として参加している。事業所の祭りに地域の住民を招いて、交流を行っている。地域の住民から畑の作物が届けられることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様、地域高齢者、地域住民の方と状況に応じて、娯楽や認知症サポーター研修等勉強会開催時には地域の方々にも声掛けをして参加していただく事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善課題などの取り組みについては現在は落ち着いた状態にある。事業の移転についての報告や説明を行い、意見をいただいている。	2か月に1回、運営推進会議を開催できるよう努めている。利用者や地域の代表者の出席を得ている。会議では、利用者の状況や行事等について報告するなどして、出席者から助言や意見を得ている。出された意見は、事業所の運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度が変わった時など積極的に情報を教えてくださる。また、事業所も待機者の情報等について困りごとがあればお聞きしている。那賀町主催の事例検討会にも参加している。	管理者は、町担当窓口を訪問するなどして、事業所の状況や活動状況を話し合うようにしている。その際、積極的に協力関係の構築に努めている。また、日頃から町主催の会議に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	那賀町の高齢者虐待対応手引きを配布していただいている。利用者様が外出したような様子を察知すると、止めるのではなく声掛けしたり、ついてゆく等安全面に考慮し自由な暮らしを支援している。	職員間で、身体拘束の弊害や内容等の理解を共有できるようにしている。職員は、利用者の生活パターンを把握するなどして、安全面に配慮しつつ、見守りや声かけを行い、一人ひとりの自由を制限しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットにより情報提供している。入浴介助も毎日交代している。身体や心理的表情的の観察も行い、危険を早期に見つけ関係機関と連携できるシステムも構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	那賀町包括支援センター主催の高齢者虐待ネットワークや社会福祉協議会からの日常支援自立支援事業、成年後見人制度についてパンフレット等を見て理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書、重要事項説明書、運営規定などの説明を充分に行ない、理解していただけるように努めている。来年度の水の花荘への事業移転についても説明会を開く予定である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からは頻繁に意見や要望をお聞きしている。ご家族には面会や電話、手紙などで利用者様の状態を伝えており、その際に意見や要望をお聞きするようにしている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、意向や希望を聞くようにしている。家族の来訪時に、利用者の生活の様子を伝えたり、電話で話しをしたりして意向や希望の把握に努めている。出された意向等は、職員間で検討し運営面に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをはかれるように心掛けている。問いかけたり聞きだしたりするように心掛けている。施設内で解決できるところは話し合い、解決できない事案は代表者や局長に相談して解決する。	日頃から、管理者と職員は、運営やケアに関する話を話し合っている。出された意見等を、代表者等に相談する機会もあり、運営面に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生の充実に向けてソウェルクラブに加入している。臨時職員の方にも昇給、賞与、退職金制度も整備している。パート職員の方にも有給を取得していただく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けれる機会があれば参加している。研修会の資料等は施設で見れるように共有し、それぞれの介護技術向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームで実践者研修の実習生を受け入れを行なっている。双方がお互いに、職員を受け入れ、職員研修を行って勉強させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前には担当のケアマネやご家族と話す場を作る。必ず面会し、ご本人とご家族に施設を見学していただく。そのうえで施設での生活に不安をなくし、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族とケアマネージャーなどと話し合いの場を設けご家族が不安に思っている事や要望を把握し、ご本人が不安なく生活できるよう提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人が何を必要としているかを把握できるように努めている。施設の設備についても説明を行い、他のサービスが必要であれば実現できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずに、お互いが共同しながら和やかな生活を送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いをご家族に伝えることで、施設とご家族がともに利用者様を支える環境を作るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事には積極的に参加しており知人に会う機会も多い。施設から離れた場所での出身の方でも面会が多く、面会に来られた際は居室や共有スペースお話しされている。	事業所では、町の担当者や保健師、介護支援専門員等の協力を得るなどして、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めている。家族の協力を得るなどして、一時帰宅や外泊等ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしで利用者の方を観察し、利用者様同士で仲良くできる環境になるよう対応している。共用スペースである食堂では楽しく過ごせるように席替え等で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族の訪問が多くある。本人がお亡くなりになった後も「お世話になりましたので」とおっしゃられ毎年、果物や野菜を持って訪問して下さる方もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を尊重し、その方らしい生活ができるように心掛けている。本人の要望をお聞きし実現が可能な事に対しては対応している。日々の行動や表情を観察して、思いや意向の把握に努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの思いや希望を把握するようにしている。意向の表出が困難な利用者には、家族や知人から話を聞くなどして、その人らしい生活の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にフェイスシートに目を通して今までの生活歴を理解し、施設での生活を快適に送れるように努めている。体調面の変化などに対応してサービス提供の仕方を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作を観察し、職員間で情報を共有し本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人やご家族の思いや意見をお聞きし反映させるようにしている。問題があればその都度、意見交換やカンファレンスを行っている。	事業所では、利用者の思いを介護計画に反映することができるよう、職員間で話し合って作成している。利用者一人ひとりの心身の状態の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりのファイルに食事、水分摂取量、排泄などの記録をし、日々の暮らしの様子を観察している。変化があれば介護計画を変更して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に依り体調不調時の通院、夜間等に柔軟な対応を行っている。ご家族の支援を受けられない方には本人やご家族の思いを聞きながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で交流する機会が多く地域のコミュニティの方や民生委員、役場職員、地域の方との交流があり、行事などへは支援くださる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的な受診は、協力医療機関へ月に一回職員が介助して受診へ行く。町外の専門医療機関への受診は家族の同行をお願いする。入所契約時にその旨を同意していたいている。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の受診が主となっているが、職員は、受診時に同行するなどしている。家族と状況を共有している。家族の協力を得るなどして、専門科の受診等ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職は置いておらず、定期受診時に医療機関の看護師に健康管理の状態や、医師からいただいた診断についての助言をいただいている。電話などの相談にも対応して下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院によるダメージを極力少なくするため家族、医師、施設が話し合う機会がある。施設で対応出来る状態になれば、対応できるように情報伝達して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の運営方針として重度化に向けた対応は行っていない。家族からの強い希望があった場合に医療機関の支援がある場合のみに対応している。	管理者は、利用者や家族に、重度化や終末期に関して事業所のできることを説明するなどして、理解を得ている。利用者の状態の変化に応じて、本人や家族、主治医と話し合うなどして、再確認し、方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員の救急救命士に依頼し、訓練を受ける機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員や契約している消防管理業者の協力をいただき、起こりうる災害や火災に対応できるように日頃から訓練している。	利用者と職員は、日中と夜間の火災を想定し、避難経路を確認している。実践的な、消火訓練も行っている。同一法人の実施する、研修会等に参加するなどして、水害、地震など様々な災害について理解を深め、職員間で共有している。しかし、地域の協力体制や備蓄等の整備は十分とはいえない。	今後は、運営推進会議等で、話し合うなどして、地域との協力体制の構築に努められるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でミーティングして問題行動と思われる事案を検討し、一人ひとりが楽しく快適に生活できる環境を整え、人格を傷つけずプライバシーの確保に努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、親しさの中にも礼節をもって接している。また、利用者一人ひとりの思いや個性等を大切にした支援を心がけている。職員は、利用者の尊厳やプライバシーの確保、守秘義務などについて理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し、叶えられる範囲で要望に答えている。ほとんどの方は「ここで生活できたら良い」とおっしゃられる方も多く、選択肢を考え自己決定していただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課の中で一人ひとりの体調の変化や、得意不得意を考えて自分らしい生活が送れるように職員が観察しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなどは基本的に本人の意向で決めていただいている。自己決定が難しい方には好みに合わせて職員が寄り添い本人の意志に沿った支援ができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方々からいただいた食材と一緒に調理したりして、季節を感じていただきながら食事に取り入れている。食事の準備や片付けなど無理のない範囲で協力していただいている。	利用者と職員は、同じテーブルを囲むなどして、会話を楽しみつつ、一人ひとりのペースで食事をとっている。近隣の住民から届けられた野菜の調理方法を話し合うなどして、献立に採り入れている。利用者は、テーブル拭きや配膳、料理の盛り付けなどしており、職員と一緒に準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるように支援している。水分摂取についても食前にお茶を湯のみ1杯飲んでいただき脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後や毎食後、歯磨きを徹底している。夜間は義歯を洗浄しポリドントに浸けている。清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録や習慣から排泄時間を把握できるようにしている。排泄時間のパターンをつかみ、失禁がないようにトイレ誘導している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。職員は、利用者全員が、トイレで排泄することができるよう、さり気ない声かけや誘導を心がけつつ、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中に体操や散歩、レクリエーションなど身体を動かす機会を設けている。食事にも野菜を多くとりいれて食物繊維を摂っていたり、乳製品を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日しているが、その日の体調や気分に合わせて対応している。季節に合わせてゆず風呂や入浴剤などを入れている。	毎日、事業所では、利用者が入浴できるようにしている。職員は、利用者の生活習慣や一人ひとりの意向や希望を大切にし、入浴の順番に配慮したり、脱衣室の温度管理の徹底に努めたりして、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や廊下で歩いて運動していただいたり、歌やレクリエーション、作業をして日中に活動いただき夜間に入眠しやすい環境を整える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるかわかるようにファイルにまとめて誰でも見やすいような環境にしている。症状の変化については申し送りに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を把握してその方らしい生活ができるように心掛けている。簡単な作業や、食事の配膳のお手伝いや洗濯物干しなど、パズルゲームなど日々の生活に張り合いが出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は暑い・寒い日などを考慮してほとんど散歩へ出掛ける。病院受診や買い物、遠足、お花見やドライブ、地域での行事に参加など外出を支援できるよう心掛けている。	季節の良い日には、利用者と職員は近隣に散歩に出かけるなどして、地域住民と挨拶を交わすなどしている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、季節の花見、ドライブ、買い物などにも出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は預かっていない。欲しいものがあれば職員と一緒に買い物へ行き、家族へ請求する形になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族の方や知人に連絡を取れるようにしている。年賀状が来た場合などは家族に伝えて出してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や食堂からは外の風景が見え、春には施設の周りの桜が咲き、季節ごとに四季を感じさせてもらえる環境である。	共有空間は、掃除が行き届き清潔に保たれており、また、明るく開放感のある空間となっている。山や樹木、草木、田畑などを見渡せることができ、季節感を感じることができる。畳のスペースには、炬燵が備えており、利用者同士で会話を楽しめる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースである食堂には座敷があり、コタツも用意している。個人の好みに合わせてパズルや本、新聞などを用意し、利用者の方同士で楽しみ空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に担当のケアマネや家族の方と相談し、利用者の方が使い慣れたものを持って来られる方もいらっしゃる。利用者の方が住みやすい環境になるように努力している。	事業所では、利用者の使い慣れた家具等を居室に持ち込んでもらっており、一人ひとりの暮らしやすさに配慮している。居室に、写真を飾っている人もいる。職員は、利用者の希望に応じて、湯たんぽを用意するなどして、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安が生じた所は職員で話し合い改善するように心掛けている。安全に生活していただけるよう環境面にも配慮している。		